森業アワードとは

森林を多様な形で活用する「森業（もりぎょう)」の優れた取組を行う企業・自治体・ＮＰＯなどを表彰・発信する顕彰制度で、人と自然の新しい関係づくりや、地域価値の創出、持続可能な社会への貢献を促進し、森業の普及・拡大と山村地域の活性化につなげることを目的としています。

【受賞取組の概要】

取組タイトル：「源流留学 -森へ入り、森との関わりをつくる-」

主たる応募者：根羽村

共同応募者　：安城市、根羽村森林組合、一般社団法人ねばのもり

１．　長年続く上下流連携と「源流留学」

矢作川の源流に位置する根羽村（人口約 800 人・森林率 94%）と下流域の安城市は 35 年にわたり「環境育林協定」等を通じた水源の森の共同管理を続けてきました。この信頼関係を土台に、子どもから企業まで多層的な「森への入口」をつくり、五感で森や水とのつながりを学べる「源流留学」を展開しています。

２．　多面的な森林整備とネイチャーポジティブ

信州大学農学部等と連携して策定した「SATOYAMA CONCEPT MAPs」により、47.82ha の水源の森を６エリアに区分。人工林の針広混交林化を進め、水源涵養と生物多様性の回復を図るとともに、教育・企業研修・観光など「伐る（きる）」だけではない多面的な価値を可視化しています。

３．　流域経済圏の創出と持続可能な森づくり

間伐材の枝葉等を活用したアロマ精油の開発（「蒸留の村」構想）や、安城市の小中学生向け「わくわくネイチャースクール」、企業研修の受入等、多様な取組を実施。「入る人がいる森は守られる」、森の保全を通じて上下流で価値を交換し合う地域循環型社会の構築を目指しています。